



ブルガリア共和国 Republic of Bulgaria



たばこ産業の特徴

- 1991年の変革の後旧ソ連邦と東欧の政治・経済的地位の変化により、かつては東欧最大のシガレット製造・輸出国であったブルガリアのたばこ産業は大きな変化を遂げた。
- シガレットの製造数量は1995年の746億本（輸出は609億本）から、2001年には266億本（同90億本）に減少している。
- 人口800万人のブルガリアで1人当たり年間の喫煙本数は3,000本近い。国内市場規模は年間約200億本。
- 数年前は国際ブランドのシェアは10%を超えていたが、現在は3%に落ちている。
- 最大のローカル・ブランドはVictoryである。
- 多国籍企業は今の所、どこもブルガリアにシガレット工場を持っていない。
Bulgartabacソフィア工場でアンダーライセンスで製造されているJTIのCamelが唯一国内製造の国際ブランドである。
しかし数量は年間2,000万本と非常に限られている。
- 1947年から国営専売であったBulgartabacは1993年に分権化され、Bulgartabac Holding持ち株会社の下に22の子会社に分離された。
- 政府が92.84%をコントロールしているBulgartabac Holding (BT) がブルガリア唯一のシガレット・メーカーであり、民営化の途上にあるが、2003年3月には80%の株式の売却交渉に失敗して民営化は中断している。

[1] 法規制

・警告文:

包かの側面に警告文「喫煙は貴方の健康に大変危険です」と表示する必要がある。
TN含有量も包かに表示する必要があるが、ニコチン・タール含有量は高額ブランドにのみ印刷されている

・成分規制:

タール15mg、ニコチンは規制無し。

・喫煙場所規制:

国内線、2時間未満の国際線、教育施設、職場として使用される政府建物、病院、2時間以内の鉄道、バス・タクシー・ターミナル、待合室は喫煙禁止。
ノンスモーカーが同意しない職場は喫煙禁止。
レストラン、ショッピングセンター、ホテルは分離され換気ある場所は喫煙可。
喫煙指定エリアは分離して換気されていること。

・販売規制:

18歳未満の未成年者への販売禁止。
学校内、学校・病院から200メートル以内では販売禁止。
自動販売機の規制は無し。
たばこの製造、販売が規制される場所あり。

・広告規制:

広告はオーディオ、ビジュアル・メディアで禁止されている。
ビルボードや特定のプレスでのみ広告は認められている。

・販売促進活動:

サンプリング、POP広告は許されているが、いくつかの規制がある。スポンサーは禁止。

・その他規制:

輸入免許、製造免許、販売免許が必要。
違反メーカーは製造、販売場所以外の所での広告には50万Leva（2,700万円）の罰金。
未成年者、学校やその近所で販売した者は1万～20万Leva（53万円～1,000万円）の罰金。

[2] 税制

従価税	小売り価格に対して	30.00%（フィルタ製品） 10.00%（ブレイン製品）
販売税	小売り価格に対して	16.67%
	小売り価格に対する税負担率	67.10%
輸入関税		68.00%（トルコ、CEFAからのものは2%）

[3] 喫煙者プロフィール

・年間当たりの喫煙本数 約3,000本

・喫煙者率

15歳以上の男性	49.2%	11～17歳の男性	23.5%
同 女性	23.8%	同 女性	31.4%

(1996年) (1998年)

[4] 市場概況

- 1991年の変革の後旧ソ連邦や東欧の政治・経済的地位の変化により、かつては東欧最大のシガレット製造・輸出国であったブルガリアのたばこ産業は大きく変化した。
シガレットの製造数量は1995年の746億本（輸出は609億本）から、2001年には266億本（同90億本）に減少している。
原因はロシア、ウクライナでプレミアム・ブランドや安価なブランドが製造され、東欧市場での競争が激しくなったためである。
輸出先は大部分が中央アジア、中近東、アフリカである。
- 人口800万人のブルガリアで1人当たり年間の喫煙本数は3,000本近い。
国内市場規模 は年間約200億本。
- 数年前は国際ブランドのシェアは10%を超えていたが、現在は3%に落ちている。
この減少の原因は、国際ブランドが比較的高価であること（20本入りで1.25ユーロであるのに対して、国産ブランドは最も高価なものでも0.60～0.70ユーロ）、国内供給が確実に増えているためである。
- 多国籍企業は今の所、どこもブルガリアにシガレット工場を持っていない。
Bulgartabacソフィア工場でアンダーライセンスにより製造されているJTIのCamelが唯一国内製造の国際ブランドである。
数量は年間2,000万本と非常に限られている。
- 輸入関税は50%であるために輸入製品は高価である。
- 政府が92.84%をコントロールしているBulgartabac Holding (BT) がブルガリア唯一のシガレット・メーカーであり、民営化の途上にあるが、2003年3月には80%の株式の売却交渉に失敗して民営化は中断している。

シガレットデータ（単位 億本）

	1995年	1998年	1999年	2000年	2001年
製造数量	746	332	290	267	266
輸入数量	23	10	2	10	13
輸出数量	609	154	110	87	90

[5] 製品概況

- 国産ブランドのシェアは90%以上と推定されており、輸入とライセンス・ブランドのシェアは数%である。
最も人気がある外国ブランドはLucky Strike、Marlboro、Rothmans、Davidoff、Kentである。
データは無いが、密輸は広がっている。
- ブルガリアの市場セグメントで最大のブランドはVictory（フルフレーバー、ライト、ウルトラ・ライト、メンソール）で、20本入りで1.20Lev（0.60ユーロ）。
国内市場の32%を占めている。
次いでSredets（フルフレーバー、ライト）が0.85Lev（0.43ユーロ）でシェアは19.4%である。
その他の国内ブランドにはMM、Melnik、Femina（スリム）、GDがあり、安いブランドにはShipka、BT、Arda（0.25～0.30ユーロ）がある。
ローカルブランドで一番高価であるOrient Expressは1.20Levaである。
- 輸入ブランドの2001年のシェアは数量で3%である。
- 通貨改革、ブルガリア通貨安（1Levaは0.5ユーロ）、間接税の変更によりシガレットの価格は大幅に値上がりしている。
- ブルガリアではライトやウルトラ・ライト製品がスリム製品と共に増加している。
ブレイン・シガレットのセクターはこれまでにかなり減少しており、安価なブレイン・シガレットのシェアは全体の1.72%に過ぎない。
ブルガリア・ブランドの価格は0.45Lev（0.23ユーロ）～1.40Lev（0.71ユーロ）の間であるのに対して、輸入製品は2.40Lev（1.22ユーロ）～2.80Lev（1.43ユーロ）の間にある。

小売り価格

国産ブランド	0.43 ドル
外国ブランド	1.14 ドル

（出典 ACS/WHO 2000）

メーカー別シェア

Bulgartabac	92%
国際ブランド	3%
その他	5%

[6] 企業概要

国内状況：

Bulgartabacの民営化手続は民営化庁の布告により2000年1月7日に始まった。政府保有株式の51%について予備的な申し込みが2000年3月末までに行われたが、応札者は全く現れず失敗した。

その後、政府は株の最低売却価格を設定して、政府がBulgartabac持ち株会社の経営管理権を保有しながら株式の80%を2002年中頃までに売却する計画を立てた。

2003年3月にソフィアにあるTobacco Capital Partners (TCP) とDeutsche Bankが支援するドイツのClar Innisのコンソーシアムが応札し、Deutsche Bankが支援するグループへの売却が決まった。

しかしDeutsche銀行は、買収後5年間Bulgartabacの株式を売却禁止するという条件に合意せず、金額的(推定1億1,000万ユーロ)にもブルガリア側と合意できず、民営化の手続きは中断している。

Bulgartabacの売却は内閣の優先事項であり、EU加盟を熱望している最貧国の一つである同国はかなりの投資を期待している。

Bulgartabac Holding:

ブルガリアはシガレットの製造では100年の歴史がある。

1947年に設立された国営専売のBulgartabacは1993年に分権化され、Bulgartabac Holding持ち株会社の下に22の子会社に分離された。

国がBulgartabacの92.84%を支配しており、残りは民間会社や個人が所有している。

子会社にはシガレット製造工場(9工場)、原料処理工場(12ヶ所)、たばこ乾燥機・フィルタ・パッキングの製造工場がある。

- ・ 製造能力は600億本。2001年の製造数量は264億6,500万本、2002年は270億本(計画)。
- ・ 主なブランドはVictory、GD、Sredetz、Femina、Shipka、Melnik、Arda等全部で50ブランドある。
- ・ ソフィア工場でアンダーライセンスによりCamelを製造(1999年の製造数量20トン)している。この工場は78%をBulgartabacが所有している。ロイヤルティーはJTIに支払われている。
- ・ Bulgartabacはシガレットと葉たばこの両方を大部分、外国との合併企業を通じて輸出している。輸出用シガレットには大部分がブルガリア葉が使用されている。
- ・ ロシアに5つの子会社、ウクライナ、ルーマニア、ユーゴスラビアに各1つの子会社を持っている。1999年にBulgartabacはロシアのSochi、Belgorod、Tverで合計100億本を製造した。主なブランドはOpa、TU-134、Rhodopi、Stewardessである。同じブランドはウクライナのポルタバ工場でも製造されており、年間40億本製造されている。

[7] 葉たばこ概要

- ・ 葉たばこはブルガリアで約380年間栽培されており、大部分がオリエト葉とセミオリエント葉である。最も重要な地域はDjebel、Krumovgrad、Nevrokop、Melnik、Dupnicaである。1999年には4万5,100トン生産したが、そのうち80%はオリエント葉、11%は黄色種、9%がバーレー葉であった。
- ・ 現在のところ約4万トンの葉たばこを生産し、そのうちの3万トンがBulgartabac向けである。Bulgartabacの原料処理工場は他のディーラー向けにも葉たばこを取り扱っているが、主な葉たばこディーラーはDimon、A.Michailides、ブルガリアの民間葉たばこディーラーNicotiana Holdingである。

葉たばこデータ(単位 トン)

	1995年	1996年	1997年	1998年	1999年	2000年
生産数量	24,366	39,792	72,100	41,500	45,100	na
輸出数量	30,262	22,775	12,678	15,527	20,540	na
輸入数量	9,856	37,200	11,540	11,833	12,200	na